

別冊第一

昭和十九年十二月八日

江戸地区防衛計畫

江戸隊

川部ノ内第六號

種
中
日
誌

江作命第五號

中隊命令

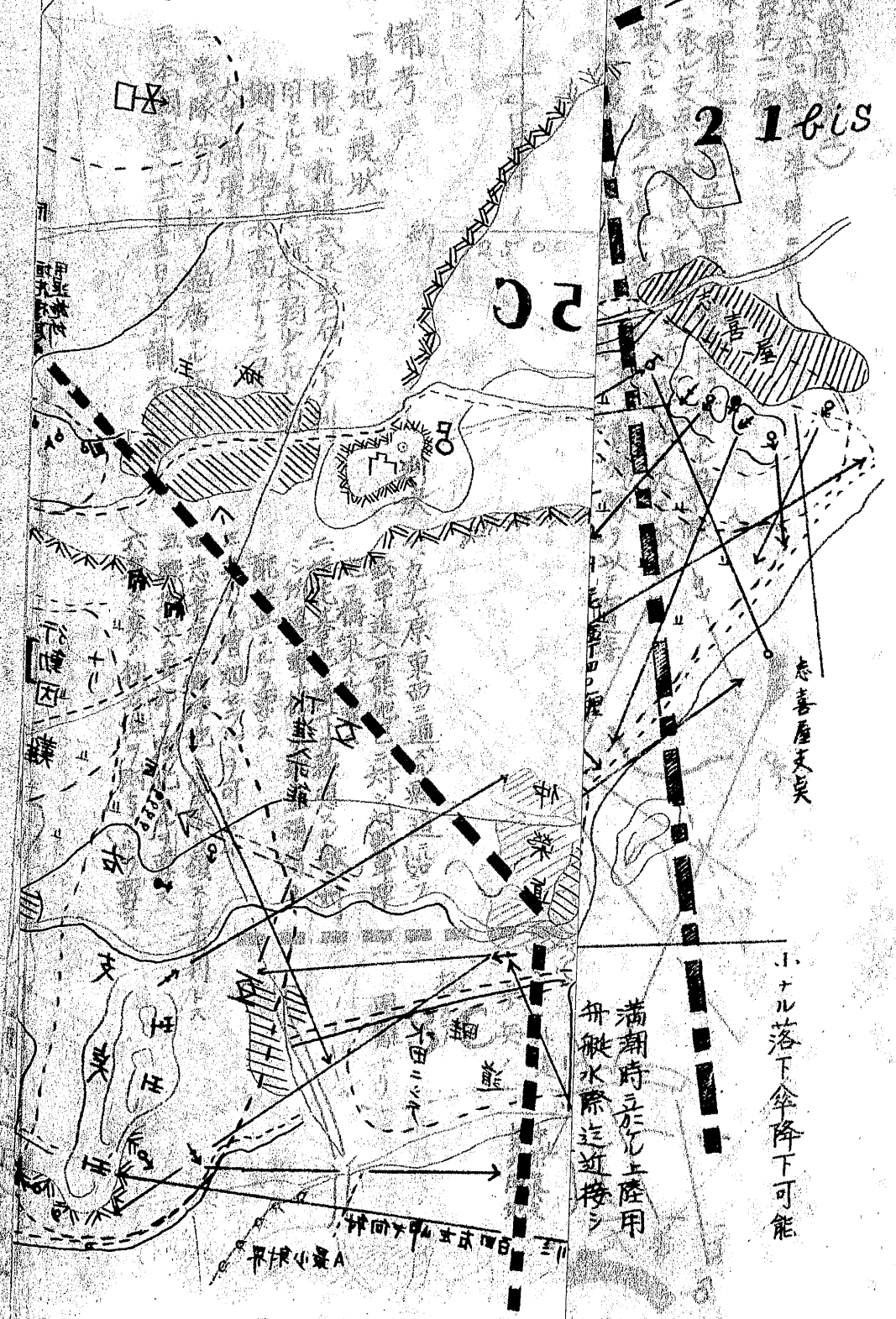
昭二九二三八
仲村渠

一中隊三部ヲ以テカキヤ原ニ主力ヲ以テ仲村渠ニ駐屯シ別
要圖第一第一中隊防衛担任地區既設陣地要圖記載地區
防衛ニ任ス

二 防衛担任地域内ニ於ケル豫想戦闘經過ハ別紙要圖第二如シ
各小隊ハ別紙要圖第三第一中隊配宿要圖如ク設營者ノ
誘導ニ依リ宿營シ第一小隊ハ中及後方支點第二小隊ハ右支
點第三小隊ハ左支點ノ防衛ニ任スヘシ

三 狀況變化ニ伴フ態勢變換並ニ戰備ニ関シハ別表第一第一
中隊狀況變化ニ伴フ態勢變換並ニ戰備基準表ニ基キ積極的
ニ實施スヘシ 此際中隊ト連絡ヲ確保スルニ勉ムヘシ

四 各小隊長別紙要圖第二第一中隊戦闘指導要圖第一ニ示シ
基キ担任支點既設陣地ニ就キ攻防演習ヲ實施シ地形地物並ニ
戦闘ニ関シハ別命ス



別紙要圖第

陣地状況ヲ一兵ニ至ル迄速カニ通曉セラル共ニ別冊第一次陣地
 構築計畫ニ基キ陣地改修補備増強新設ノ状況不利ニ場合
 ニ於テモ敢強ク戰鬥ヲ持續シウル如ク獨立性ヲ有スル支點ヲ速カニ
 構築スルニ勉ムベシ
 五 各小隊ハ所在重火器部隊ト密接ニ協同連絡シ致團結スル共ニ
 一般地方民衆ニ對シ嚴正ナル軍紀風紀ヲ現示シ皇軍賴ムベシノ
 信頼感ヲ起サシメ積極的ニ協力スルニ至ラシムルニ勉ムベシ
 六 余ハ逐日各小隊ヲ巡視シ現地ニ於テ指導ス

中隊長 江戸公平

下達法 小隊長ヲ集メ現地ニ於テ口達ス

小ナル落下傘降下可能

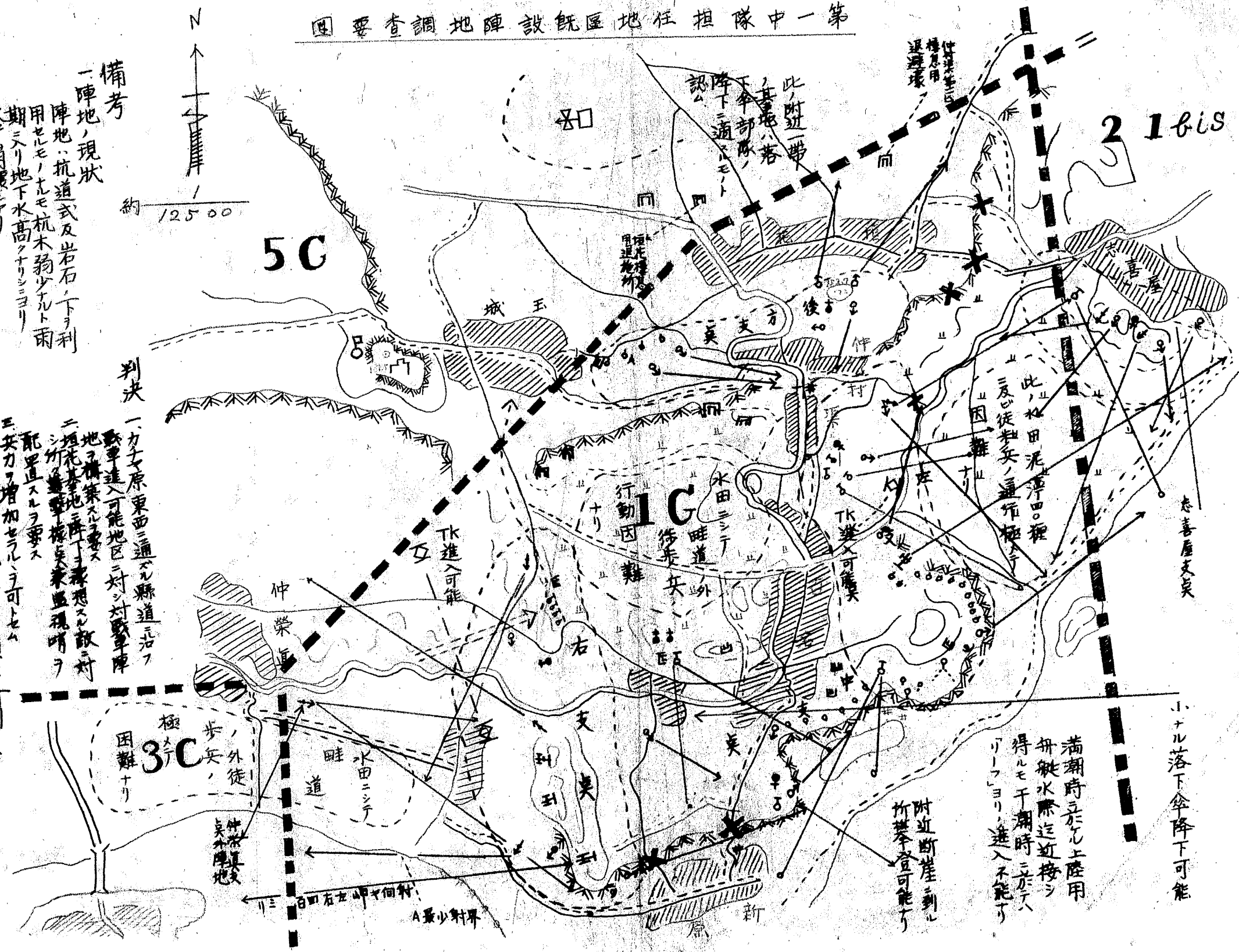
満潮時立上陸用
舟艇水際迄近接シ

平塚小隊A

第一中隊任地既設陣地要圖

備考
 一 陣地ノ現状
 陣地ハ抗道式及岩石ノ下ヲ利
 用セルモノナリ杭木弱クシテ雨
 期ニ入り地下水高クナリシヨリ
 大半崩壊シテリ
 二 當隊兵力ニ比シ過廣ニ感アリ
 三 本調査ハ上月十三日迄ノ調査記録ナリ

判決
 一 カチ原東西ニ通ル縣道ニ沿フ
 敵軍進入可能地区ニ對シ對戰陣
 地ヲ構築スルヲ要ス
 二 畑地ニ降下ヲ豫想スル敵ニ對
 シ竹藪等ニ據テ突撃監視ヲ
 配置スルヲ要ス
 三 兵力ヲ増加セラルコトセム
 四 志喜屋西側陣地ハ當隊占領スル有利トス
 五 陣地突撃部ヲ強化スルヲ要ス
 六 峯支英ノ樹立性ヲ附与スルヲ要ス



別紙圖集

下道法 小隊長ヲ集メ現地ニ於テ口述ス

小ナル落下傘降下可能
 満潮時立上ル陸用
 舟艇水際迄近接シ
 得ルモノ干潮時ニ於テハ
 リフヨリ進入不能ナリ
 附近断崖ニ到ル
 折返可能ナリ

A最少射界

(第一圖) 第一隊中隊指揮要圖
昭和二十二年二月二十二日於中隊

(別紙圖第二)

戰中指揮方針
中隊付勝天原附近
既設陣地ヲ占領シ
所配置火器部隊ト協同シ
大隊防禦線一帯ヲ分擔シ
火力ヲ以テ當面ノ敵ヲ陣地前
擊テ殺スルニ着メ縱ニ突破
不利ニ場合ニ於テモ
數強ク敵ヲ持續シテ
陣地ヲ確保シ大隊隊
黨運龍、支撐
ヲトス

戰中指揮方針
一 戰中開始前ニ豫想セラルル
陣地射撃ニ對シ能ク
交換並ニ戰中準備ニ關
別長第ニ依リ
二 中隊ニ乘進時地内點點ノ獨立性ヲ有スル最良
兵力ニ依リ支隊ノ精銳ノ陣前至近距離ニ於テ敵
ヲ擊滅スルニ着メテ陣地ヲ入り多量ノ裝備隊ヲ以テ陣地
前ニ運搬並ニ戰力集中ヲ圖リ陣地ヲ堅持ス此際
持ニ敵ニ意表ニ出スニ動地位ヲ確保ス
三 戰況不利ニ場合ニ於テ各支隊兵力ノ最後迄支隊ヲ
保セシメ中隊トシテ攔射ヲ殺スルモトス此際中隊主力ハ
後方支隊ヲ占領ス
四 戰中ニ當リテハ彈藥節用ニ着目ス
戰中斷絶ヲ持テ重視ス



○	●	×	△	□	◇	▽	■	▲	◆	◇	▽	■	▲	◆	◇	▽	■	▲	◆
敵隊	我隊	砲台	陣地	交通線	水源	高地	低地	崖	溝	橋	門	塔	燈塔	砲台	陣地	交通線	水源	高地	低地



昭和二十二年二月二十二日

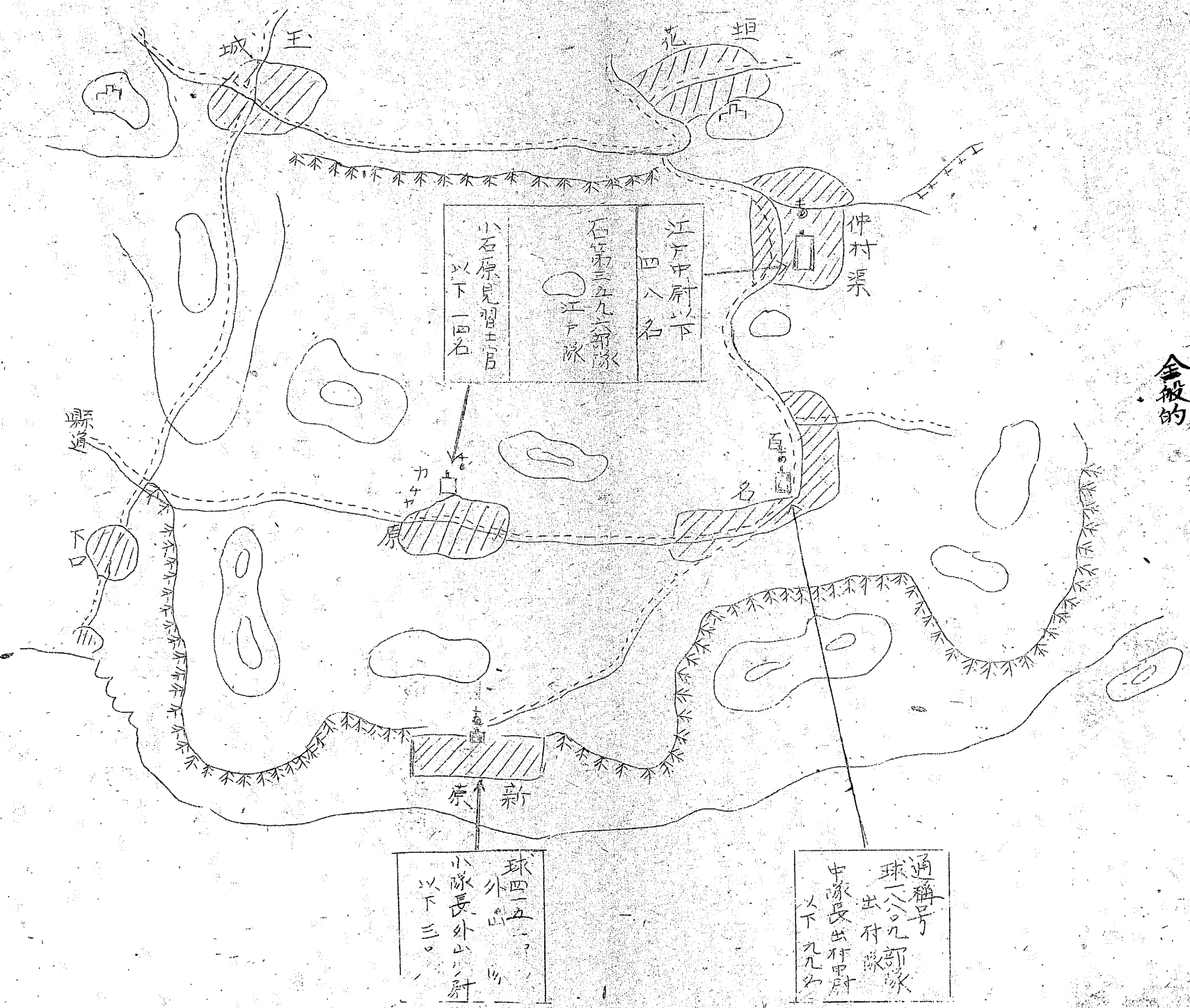
興山縣...

別紙要圖第三

第一中隊配置要圖

第一中隊地區內軍隊配置要圖

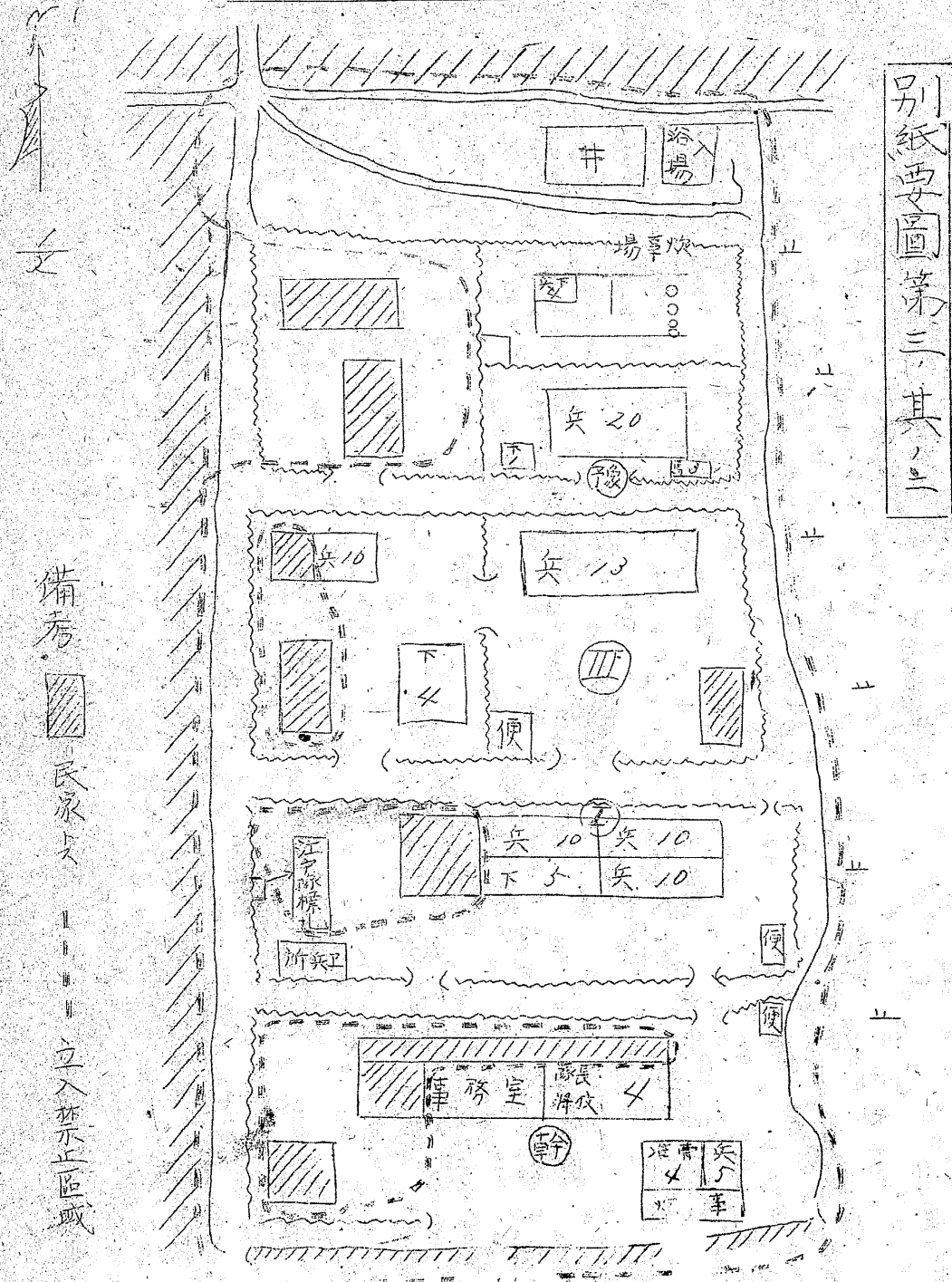
全般的



凡例

□ 中隊
 ■ 他部隊

圖要宿配渠村仲力主隊中



備考



民家



立入禁止區